

公共図書館向け「ヘルスリテラシー関連図書 パッケージ貸出」(第1報)

赤石知香, 山田奈々
青森県立保健大学附属図書館

1. 背景・目的

全国で最も平均寿命が短いとされる青森県は、短命県返上に向け、県民の健康に対する意識改善に取り組んでいる。本学においても、平成27年4月に「健やか力（ヘルスリテラシー）サポート宣言」を行い、全学で事業を展開、附属図書館はその一環として、「病気にならない、健康で暮らすための力」を、図書を通して提供することを試みている。

2. 取り組み

2-1. 事前アンケート（平成27年12月～平成28年1月）

青森県内で貸出を実施している公共図書館等29機関を対象に、「ヘルスリテラシー関連図書パッケージ貸出」についてのアンケートを実施したところ、平成28年度に利用予定という回答が6機関、時期未定を含めた利用予定は14機関だった。

2-2. ヘルスリテラシー関連図書パッケージ作成（平成28年4月～9月）

健康・医療に関する図書46冊のパッケージを6セット用意した。図書の選定にあたっては、公共図書館等の蔵書との差別化を図るため、大学1年生レベルの内容のもの、かつカラー図版が多用されたわかりやすいものを意識した。

2-3. 利用申込のあった公共図書館への貸出及び利用後アンケート（平成28年10月～）

平成28年度の利用は2機関に留まった。利用後アンケートは好評であった。

2-4. 平成29年度アンケート（平成29年6月～7月）

県内の公共図書館等29機関を対象にアンケートを実施し、利用予定と要望について調査した。

3. 結果の分析と今後の活動（平成29年3月～）

パッケージ利用が2機関に留まった背景には、「ヘルスリテラシー」という言葉に対する説明が不十分であったこと、パッケージの内容が必ずしも公共図書館等のニーズを反映したものではなかったことが影響しているものと考えられる。事前アンケートで公共図書館等からニーズがあった図書は、事業の目的と若干のズレが生じていた。このため、ヘルスリテラシーに興味・関心を持ってもらえるような広報について検討を行っているところである。